JWF ファンド 2023完了プロジェクトの概要

West Timor の元避難民集落給水管網補修（インドネシア）

- 実施団体：Centrum Inisiatif Rakyat Mandiri (CIRMA)
- 実 施 地：インドネシア ヌサトゥンガラチムール州クパン県Kupang Tenga郡Tanah Merah村Dusun IV
- 費　　用：2,087.04ドル（JWFファンド1,500ドル、団体500ドル、受益者87.04ドル）
- 受益者数：702人（男性202人、女性211人、子ども289人）
- 実施地の水問題：
  実施地のDusun Ⅳは、元東チモール避難民が110軒住む貧困集落だった。既存の水道施設は、水中ポンプの故障や配水管路の破損のために機能していなかった。水中ポンプが故障して、清潔な水を得られず谷から5キロ歩いて水を汲んでいた。乾季には必要な飲料水の配分を牛と争うありさまだった。水中ポンプと給水管路を修理するプロジェクトを提案した。

【実施前】

一滴も水がないバケツと住民

【実施中】

住民総出で給水管路工事

【実施後】

満水した自宅受水槽と住民

- 主な活動内容：水中ポンプ1基の新設と貯水槽、給水管網の補修、集落水管理組合の設置等
- 持続可能な活動：集落水管理組合により維持管理がなされ、利用料は地域により徴収される。

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

West Timor の元避難民集落配水管網補修（インドネシア）

【現状】

・2025年9月27日、CIRMAが現地訪問した。JWFファンドの支援により建設・改善された施設は、計画通りの性能で非常によく機能していた。水中ポンプ、給水管、貯水槽は良好な状態にあり、地域住民の家庭に効率的に清浄な水を供給し続けていた。
・受益者は給水施設を適切に責任を持ち使用していた。水利用に関するルールや取り決めは、水利用者のグループ内で話し合いを通じて策定されていた。
・給水施設管理はプロジェクトで設立された「地域水管理委員会（Badan Pengelola Lumbung Air Komunitas）」が行い、施設の持続可能性と適正な利用の鍵となっていた。委員会は施設周辺の清掃・保全のために、地域社会活動（gotong royong）を行っていた。
・プロジェクト当初から各家庭の利用者は毎月定額の30,000ルピア（IDR、約270円）の運営費を支払うことに合意していて、その費用は電気代や給水管網の維持管理に充てられていた。こうした共同体主導アプローチは施設の財政的な持続可能性と円滑な運用の両方を維持するうえで、効果的と証明された。

子どもたちが遊びながら水浴びするようになった

【変化】

・清浄な給水の施設が修復して完全に機能してから、受益者の衛生習慣には大きな前向きな変化が見られた。清浄な水に安定してアクセスできるようになり、地域住民の日常生活はより良い衛生管理や衛生的な行動を実践するようになった。
・最も顕著な変化は、水系感染症や衛生関連の病気が、著しく減少し、場合によっては完全になくなったこと。
・当初の「清浄な水へのアクセスを確保する」という目的を超えて、地域住民はこの水を小規模な園芸農業にも活用していた。この追加的な利点により、地域の元難民世帯の食料安全保障が強化され、生活の向上にもつながっていた。

園芸的小規模農業の例。畑地の受水槽に、ホースで井戸からひいた水を貯めている

【その他】

・2024年末に、CIRMAはSELAVIP（ベルギー本拠のNGO）資金を得て、複数の農村地域で「健康的なトイレ・プログラム」の実施に成功した。JWFファンドによって清浄で信頼できる水の供給が確保されたことで、衛生環境の改善と一体となったレジリエンスと健康向上への統合的アプローチを強調できるようになった。
・草の根レベル活動を継続する上での障害は、資金、人材、能力不足。
・JWFファンド2026が、気候変動の影響を受けている農村地域において、地域主導でその土地に適した水の解決策を引き続き優先することを心より願う。

給水管網の維持管理担当者による貯水槽点検

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

West Timor の元避難民集落配水管網補修（インドネシア）

現場からの声（抜粋）

Mr. Petrus Hayon　（60歳共同体指導者）

「清浄な水プロジェクト」の完了以来、私たち共同体住民の衛生習慣に多くの前向きな変化が見られました。以前は多くの家庭が清浄な水の確保に苦労しており、十分な衛生管理を行うのは困難でした。しかし今では、給水施設の改善によって、誰もが簡単かつ定期的に清浄な水を利用できます。人々は手洗いの習慣、家やその周囲の清掃、適切な衛生管理など、より健康的な生活習慣を身につけました。特に子どもや女性は、衛生の重要性について意識が高まり、より責任を持って水を使っています。その結果、病気の発生件数は減少して、地域全体が清潔で健康的、そして整った感じになりました。ネガティブな変化は一切なく、人々の健康と福祉が全体的に向上するという、ポジティブな成果のみもたらされました。このプロジェクトは、私たちの共同体にとって本当に大きな変化となりました。

Mr. Marcel Seran（63歳、水管理委員会委員長）

水管理委員会は給水施設が円滑に運営するように、金銭と人材の両資源を確保しながらよく機能しています。金銭面では当初から、地域住民は家庭ごとに毎月少額の料金支払いすると合意していました。負担金は透明度高く集められ、給水施設の電気や維持管理費に使われています。水管理委員会は共同体会議に資金の使用状況を公開報告するので、誰もがその使い道を理解できます。こうした透明性が信頼を築き、全住民がこの体制に責任を持ち続ける助けになっています。人的資源の面では、水管理委員会が任命した一人の技術担当者が日々の給水施設運営を監督しており、地域住民も交代で給水やポンプの操作を手伝っています。こうした取り組みによって、すべての人が施設やプロジェクト恩恵の持続に関わっています。この施設は地域社会をより強く、より責任感のある、自立へと成長させ、清浄な水資源管理を可能にしています。

水管理委員長への聞き取り調査

Ms. Maria Goreti　（42歳、受益者）

このプロジェクトが完了してから、多くの前向きな変化がありました。「清浄な給水施設」がしっかり機能しているので、私たちの日常生活はとても楽になりました。もう遠くまで水を汲みに行く必要はなく、料理・洗濯・入浴・家の掃除などに使う清浄な水がいつでも十分にあります。子どもたちは、毎日きちんと衛生習慣をできるようになり、以前より健康になりました。また、家庭菜園や小規模農業といった従来なかった活動に使える時間ができて、収入や食料確保に役立っています。近所の環境も清潔になりました。人々が排水の管理をよく行い、周囲を清潔に保つようになったからです。何よりも、地域の一体感が強まったのがとても大きな成果です。私たちは協力して水施設を管理して、お互いに助け合うようになりました。このプロジェクトは私たちの健康、暮らしやすさ、そして生活の質を大きく向上しました。より良く、持続可能な未来を築けるようにご支援してくださったJWFファンドに、心から感謝しています。